

るので、右俣の調査に移る。

右俣に入って1分と違まないうちにナメ滝に出くわした。左俣が花崗岩であったのに、こちらは凝灰岩である。滝は大きなものはないが、小滝がいくつも出てくる。

一条の筋となって落ちる3段の滝を通過する。その後も2m前後の滝が続き、沢水のきれいな源頭部まであきない遊行が楽しめる。源頭部は、左俣と同じく、稜線まで一気に突き上げていた。

今日は、小さいが多くの滝の出現により、予想以上に楽しい遊行だった。満足して帰路につく。

(記・)

[タイム] 二俣(15:25)→右俣終了(15:50)

千人沢

1985年7月21日

L.

仕事を終えて出発。目的の千人沢は、後沢にかかる落合橋のひとつ手前の沢で

ある。橋に千人沢と書いてあるので、間違うことはない。しかし、あまりにも小さな沢である。

橋を降りて遊行を開始するが、すぐに林道が横切り、沢はヒューム管の中に入ってしまう。しかたなく林道に上がり沢をさがすが、幅1m程のこの沢は、刈り払いした枝の下で歩けるものでない。

ヤブをこぎながら登ってゆくと、ようやく広い河原に出た。一部伏流となり、至る所クマかカモシカか、大きな足跡が残っていて、気分の良い沢ではない。

顕著な二俣を右に入り、稜線が見えてきた所で、ヤブもひどいので遊行終了とする。二俣手前のだいたい色の広いナメがこの沢唯一の収穫であるが、沢登りの対象としてはあまりにもおそまつである。

(記・)

[タイム] 千人沢橋(13:50)→遊行終了(14:20)

